

令和7年度 全国学力・学習状況調査の 結果をお知らせします。

児童・生徒への指導の充実や、学習状況の改善などに役立てるため、全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に「全国・学力学習状況調査」が今年も4月に行われました。日野学園前期課程6年生と後期課程9年生も、国語・算数(数学)・理科の3教科と児童・生徒質問紙調査(生活習慣、学習意欲・環境などの調査)を行いました。調査結果をもとに、日野学園の児童生徒の「強み」と「今後のさらなる成長のための課題」をご紹介します。

【前期課程】

3教科とも、全国平均正答率(以下、全国)を若干上回る結果でした。

《強み》

●知識の定着

教科の基礎となる知識・理解を問う問題では、全国と比べて高い正答率でした。日々の授業に加え、学習したことを繰り返し練習するなどの成果が出ていると推測します。

●学習への意欲の高さ

国語や理科に強い関心を持ち、前向きに学ぼうとする姿勢が見られます。

●自ら学ぶ力

授業で友だちと話し合っ

たり(対話的な学び)、ICT機器を活用したりしながら主体的に学びを進める力が定着しています。

●読書習慣の定着

豊かな読書習慣が身についていることがうかがえます。

《今後の成長のための課題》

●知識を活用する力

教科で学んだ知識を使って、資料を読み解いたり、考えを組み立てたりするなど、実生活や新たな問題に「つなげる」学習をさらに重視することが必要です。

●自己肯定感の育成

友だちや先生との関係は良好ですが、「自分の良いと

ころ」を見つけることや、「困りごとを相談できる」と

いう意識が全国よりやや低い傾向が見られます。家庭、学校、地域で、日々の頑張りや良い面を積極的に認め、

自信につながる声かけが大切だと思います。

●学校以外の学習習慣

学校の授業以外の学習時間が、全国と比べて短い傾向にあります。家庭では、単純な学習時間の長さではなく、机に向かい、予習や復習をする習慣の定着が必要

【後期課程】

前期課程同様、3教科とも全国を上回り、特に国語と

理科では大きく上回りました。

《強み》

●優れた分析力と知識

数学のデータを分析し論理的に考える力、理科の科学的な知識を現実の事象と結び付けて考える力などに強みがあります。

●高い学習意欲

教科への興味関心や、学ぶ意義をしっかりと意識し、学習に前向きに取り組む姿勢が見られます。

●学びの自己調整

ICT活用や読書習慣が定着しており、自ら計画を立てて学ぼうとする意識の高さも強みです。

《今後の成長のための課題》

●論理的に伝える力

学んだ知識をもとに、根拠(理由)を明確にして自分の考えを組み立て、表現する力に課題が見られます。知識を活用し、結果を振り返って説明する活動を積み重ね、論理的に表現する活動が授業の中で増やすことが必要です。

●生活リズムと学習基盤

就寝時刻が安定していない生徒が多く、生活習慣に

課題が見られます。また、前期課程同様、家庭学習などの学校外での学習時間が短い傾向にあります。学力や意欲の土台となる規則正しい生活リズムと、家庭での安定した学習環境づくりが大切です。

《まとめ》

本町のように児童生徒の人数が比較的少ない場合、平均値はわずか数人の得点によって大きく変動してしまいます。そのため、この平均値は全国と比べて「高い」「低い」といった単純な優劣をつけるものではなく、あくまでも「子どもたちの成長の傾向を知るための参考情報」として大切に捉えています。

学校では、一人一人の子どもたちの学習状況をきめ細かく見取り、今後の指導に生かしていきます。町民の皆様におかれましても、子どもたちが自信を持ち、主体的に学べるよう、日頃の温かい見守りや声かけを通じて、地域全体で応援したいいただきますよう、お願い申し上げます。

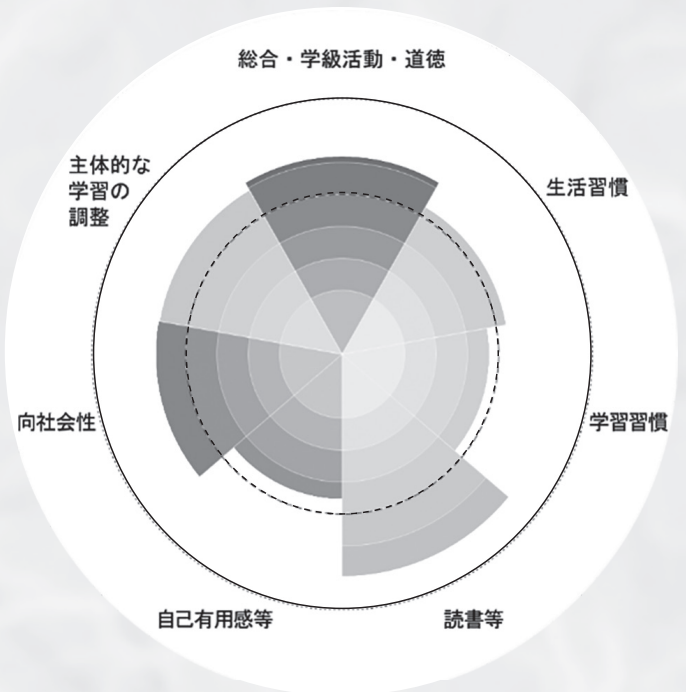
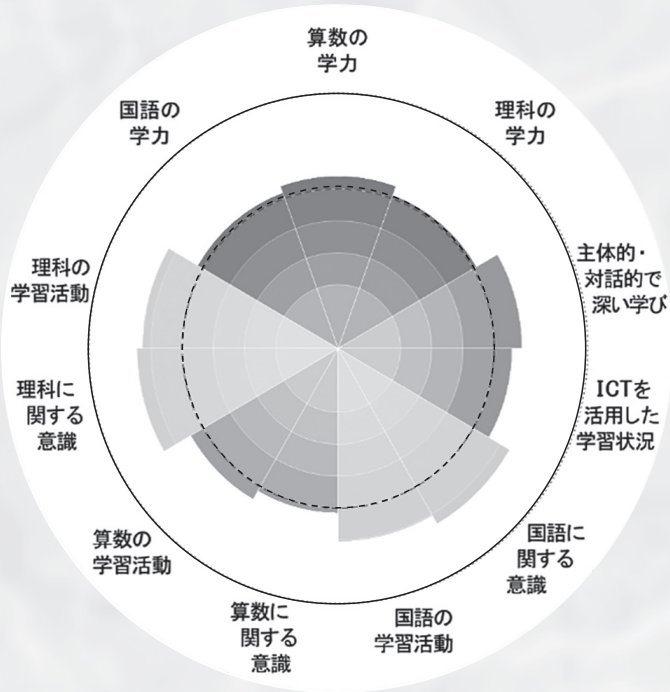
調査結果チャート

※点線が全国基準

【前期課程】

[教科を中心とした学力・学習状況]

[その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）]



【後期課程】

[教科を中心とした学力・学習状況]

[その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）]

